

全空連 267号
令和3年10月18日

各都道府県連盟理事長 殿
各競技団体理事長 殿
各協力団体理事長 殿

公益財団法人 全日本空手道連盟
専務理事 里見和洋



組手における注意喚起について（通知）

秋冷の候 貴連盟におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当連盟の事業にご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、長引くコロナ禍の中、空手道活動におきましては感染拡大防止に努めながら、鋭意推進していることと拝察いたします。特に感染リスクの高い組手競技では、メンホーにマウスシールドを着装することで感染防止効果が確認されており、全空連としても推奨しているところですが、

しかし、メンホーを使用せず、マスクを付けて組手の試合や練習を実施するところがあるかと思っております。過日、全空連主催選考会におけるマスクを着装した組手試合の中で、審判団が得点を宣告し試合を続行した後に、負傷が確認されるという事例がありました。競技規定の運用により、得点はそのままとし負傷に対する罰則も与えない状況でしたが、試合後に医療機関を受診したところ、選手は鼻骨骨折で緊急手術となったものです。

審判員並びに指導者の皆様におかれましては、顔面への接触技における負傷について、十分ご注意の上選手の安全にご配慮されるようお願い申し上げます。特に試合において接触があった場合は、選手にマスクを外させ、時間をかけて丁寧に負傷の状況を確認するようお願いいたします。鼻の負傷は、出血まで時間がかかる場合があるので注意が必要です。

また出血のためマスクが汚れた場合は、新しいマスクに交換してください。主催者が救護席にマスクを準備することをお勧めします。

以上、各連盟におかれましては、選手の安全管理に十分ご配慮の上、コロナ禍における空手道推進に取り組みくださいますようお願い申し上げます。